

# 第1回<sup>えんちゃ</sup>淹茶選手権 静岡大会要項

大会は課題茶部門とフリースタイル茶部門の2部門で開催する

- |             |  |
|-------------|--|
| ・課題茶部門      | ：運営が用意した茶葉・茶器を使ってお茶を淹れる                          |
| ・フリースタイル茶部門 | ：出場者が選んだ茶葉と茶器を使ってお茶を淹れる<br>(ただし、お湯・スケールは運営が用意する) |

<はじめに>

本大会は『あなたのお茶が飲みたい/飲んでみたい』と相手に思わせることを競う大会である。茶品評会のように茶葉に着目するのではなく、世の中に“お茶を淹れる人”に着目してもらうことを目的とする。彼らが目の前のお茶を淹れるために何を考え、何に悩み、どのような技術を磨き、そこから何を伝えようとしているのか。お茶と向き合う日々を積み重ねてきた者だけが淹れられる一杯を通じて、淹茶(=お茶を淹れる行為)の魅力を今こそ世界に発信していく。

<大会要項>

- ・大会出場者は2部門への出場を必須とする
- ・両部門とも制限時間は1人10分間(残り1分でベルが鳴る)、その後審査員との質疑応答5分間とする(10分間にお茶の説明および審査員へお茶を淹れる時間が含まれます)
- ・出場者間の転換時間は10分間(前のお茶の片付け+次の出場者のセッティング完了まで)。審査員はその間に審査を完了させる。
- ・競技は出場者の「はじめます」という言葉からスタートする
- ・出場者は以下の内容を必ず盛り込むこと
  - 課題茶 : 飲んだ印象およびなぜその淹れ方をするか説明
  - フリー茶 : そのお茶を選んだ理由およびなぜその淹れ方をするか説明
- ・審査の配点は以下の通りとする(加点方式)
  - 1.技術+2.プレゼンテーション : 課題茶39点/フリースタイル茶41点
  - 3.味 : 30点/40点
  - 4.芸術 : 70点/80点

※詳細は審査シート参照。上記に加えて加算点ボードから20~100点が加算される
- ・課題茶とフリー茶の総合点が最も高い出場者に「最優秀淹茶賞」が与えられる。
- ・静岡大会の審査員は以下3名とする
  - 審査委員長 : 奥富雅浩(from 奥富園、日本茶インストラクター協会 東日本ブロック長)
  - 審査員 : 渥美慶祐(from 茶屋すずわ 店主)
  - 審査員 : 小幡一樹(日本茶インストラクター)

・観客審査（会場及びオンライン）について

会場の観客、及びオンラインの視聴者へ Google フォームを活用した観客審査を行う。テイस्टィングがない為、最も魅力的に淹茶をしていた出場者へ1人1票を投じることができ、得票数が最多の出場者に「観客賞」が与えられる。観客賞について副賞はない。

・写真撮影やメディア取材について

当日は記録用の写真撮影とメディアによる取材が行われる予定であり、出場者は基本的に顔出し OK とし、撮影された素材は運営側やメディアが善良な管理者の注意義務を負いながら自由に使えるものとする。

・この大会では見ている側もやってみたいと思える内容にするため、出場者がイメージする茶葉の量・浸出時間・お湯の温度・お湯の量は大会後に HP 上で公開するため、運営側に提出するフリースタイルの内容メールに記載する（静岡大会では課題茶を事前配布するため課題茶の分量等についても記載してください）

・静岡大会優勝者には東京本選(2022/2/20)への出場権が与えられる

（交通費は事務局より支給します）

・審査員、会場オーディエンス含め出場者のパフォーマンスに対する歓声は歓迎する（ただし COVID-19 状況次第で変更有り。なお掛け声などの応援は不可とします）

・静岡大会では Youtube 上でオンライン配信を行う予定

・静岡大会(2022/1/22)のスケジュールは以下の通りとする

9:00	搬入+会場設営
10:00	出場者集合、ルール説明、出場者リハーサル
12:00-13:30	課題茶部門
13:30-14:00	転換
14:00-16:00	フリースタイル茶部門
16:00-16:30	審査
16:30-17:00	結果発表、表彰式
17:00-18:00	片づけ

◎課題茶部門について

・静岡大会の課題茶は“伊藤園 黄金みどり”とする

・課題茶は出場者へ1週間前を目安に事前配送する（配布量 50g）。出場者は事前配布された分量の中で複数回試飲することが可能。尚、本番当日はリハーサルと本番用に別途 20g の茶葉が支給される。

・課題茶部門のパフォーマンスをする急須及び湯呑みは運営側が用意したものを使用する。尚、どのような急須、湯呑みかは課題茶の送付時期を目安に写真と大きさの情報が送られる。

<課題茶の茶器>

- ・急須は帯網、満水 250ml になります



- ・湯呑みは 100ml の白磁のものになります



- ・湯冷しは 200ml 入るこちらの耐熱ガラスのものになります



◎フリースタイル茶部門について

- ・使用する茶はカメリア・シネンシスかつ日本で栽培、製造したものに限定
- ・フリースタイル茶部門においては事前に事務局からテーマが伝えられる

★静岡大会のテーマは「春」

- ・大会3日前までに運営へ当日の内容をメールにて提出すること（使用する茶葉、茶器、その他道具、パフォーマンス内容）宛先：[encha.project@gmail.com](mailto:encha.project@gmail.com)

※パフォーマンス内容について運営が危険または過激と判断した場合、運営側は出場者と事前調整を行う

◎当日リハーサルについて

当日、リハーサル時間が各自20分与えられる。その時間内で課題茶及びフリースタイル茶のパフォーマンスのリハーサルをそれぞれ1回は行うこととする。リハーサルの順番は当日の朝10時に決められる。

◎淹茶パフォーマンスの順番について

当日の朝10時にくじ引きにて順番が決められる。尚、課題茶及びフリースタイル茶はどちらも同じ順番で行うことになる。

◎淹茶パフォーマンスについて

- ・水はペットボトルの軟水の水が支給される。
- ・湯沸かしティーポットと電気スケールが貸与される。
- ・テーブルの高さ83cm、天板の大きさは90cm×180cm、天板の色は黒色のものが用意される。
- ・審査員が飲む液体の中にお茶以外の香りや味が付加されるものを入れてはいけない。
- ・途中、館内放送が入るなど何かしらのトラブルが起こった際は、手を上げて制限時間の進行を一時ストップすることができる。
- ・出場者はピンマイクを付けてパフォーマンスを行うものとする。
- ・制限時間終了1分前にベルが1回鳴り、終了と共にベルが2回鳴る。その後速やかにパフォーマンスを終了しない場合は減点の対象となる。減点は10秒毎にマイナス3点とする。
- ・パフォーマンスはお茶を湯呑みに注ぎ切るまでとし、審査員がお茶を飲む時間は制限時間とは別で行うことができる。尚、2煎淹れる場合の1煎目を審査員が飲む時間は制限時間を含むこととする。
- ・お茶を淹れた湯呑みは会場スタッフが審査員へ手渡しするものとし、出場者が直接渡したい場合は事前に申請する必要がある。
- ・パフォーマンスが終了後、審査員による質問の時間が設けられる。質問への回答の内容によって得点に影響があるものとする。また、質問時間は制限時間外とする。

以上